

地区防災計画を反映した危機管理訓練の実施について

一般財団法人砂防フロンティア整備推進機構 ○金子 剛史, 佐光 洋一

日本工営株式会社 萩原 陽一郎, 増澤 徳親, 金田 成元

1. はじめに

利根川は、群馬県利根郡みなかみ町にある大水上山を水源として関東地方を北から東へ流れ、太平洋に注ぐ一級河川で、群馬県内では吾妻川流域、烏川流域、神流川・鐺川流域、片品川・奥利根流域に大別される。(図1)

上記の4流域においては、大規模土砂災害が発生した際に、関係機関が適切に連携し、迅速かつ適切な災害防御活動を実施することを目的として「利根川水系 大規模土砂災害における連絡協議会」(事務局：利根川水系砂防事務所)が設置され、協議会の取り組みの1つとして合同防災訓練を毎年実施しており、令和6年度は片品川・奥利根流域が対象となった。

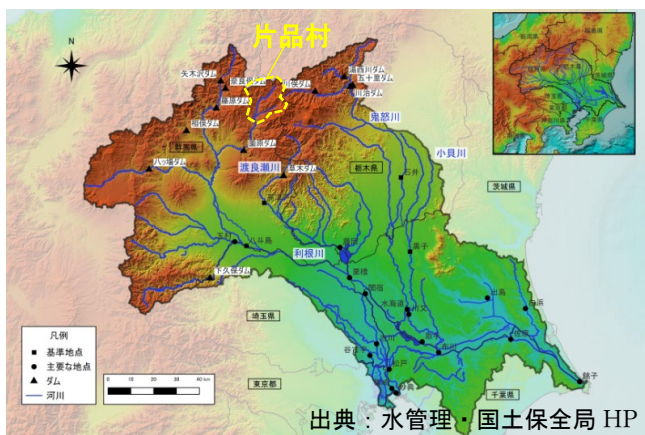


図1 利根川 流域図

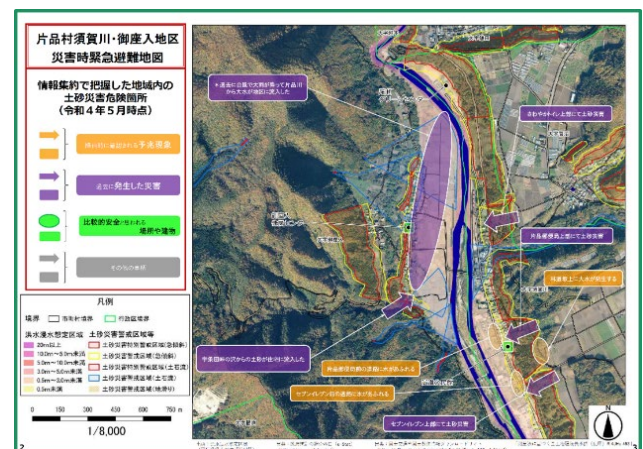
訓練参加機関の1つである片品村では、村内全32地区で地区防災計画が策定されているため、それらを考慮した訓練シナリオ(災害想定および質問回答)を検討・実践することで、地域の実状に則した災害対応が確認できると考えられる。

本発表では、合同防災訓練における地区防災計画を考慮した訓練シナリオの検討に関する取り組みについて報告する。

2. 片品村における地区防災計画

片品村は山と川に挟まれた場所に多くの地区(集落)が形成されているため、地区ごとの災害特性を踏まえた防災マップ(災害時緊急避難地図)が個別に作成されている。(図2: 上図)

また、『わたしの避難行動』というページがあり、いつ・どこへ避難するのかという内容を、簡易な記入欄やチェックボックス等を用いて、住民自らが決定し、記入できるようになっている。(図2: 下図)



幡谷地区 わたしの避難行動

自宅は危険な区域に入っていますか▶「災害時緊急避難地図」を確認しましょう
私の家は ☐ 区域内 ☐ 土砂災害警戒区域・☐ 洪水浸水想定区域 ☐ 区域外です。
▶区域内にチェックを入れた方は、以下のフローに従って避難してください。
▶区域外にチェックを入れた方は、③の行動を取ってください。

①雨が降り始めたら、雨や川の状況に注意を払う
土砂災害や河川の氾濫が起こる情報を確認できるようにしてください。
(インターネットで雨や川の状況を見る。テレビのデータ放送をつける。)

②避難が必要な状態になったら避難する
私は ☐ テレビ ☐ インターネット ☐ その他 の情報をもとに
いつ ☐ 高齢者等避難・レベル3 ☐ 避難指示・レベル4
誰と ☐ 一人で ☐ 家族と ☐ 地域の人と ☐ その他
※避難の呼びかけを近所の方に行いましょう
何で ☐ 徒歩で ☐ 車で ☐ その他
緊急避難：移動に危険を伴う場合は、自宅を含めてげけや沢から
少しでも離れた頑丈な建物の2階以上へ避難
事前避難：安全に避難できる場合は、少し遠くでもより安全な場所へ避難 をします。

緊急避難 (屋内退避・安全確保)
☐ 家の近くのコンクリート構造の建物
☐ 家の近くの2階以上の建物
☐ 家の中のげけや沢から少しでも離れた部屋
避難場所:

事前避難 (立ち退き)
☐ 片品村が指定した避難場所へ避難
避難場所:
☐ 安全な親戚・知人宅へ避難
避難場所:
☐ 安全なホテル・旅館へ避難
避難場所:
☐ 車で安全な場所まで避難・その他
避難場所:

※避難中の被災を避けるための行動であり、建物ごと被災する可能性があります。事前避難を心がけましょう。

図2 片品村地区防災計画
(上: 防災マップ, 下: 私の避難行動(記入様式))

地区防災計画策定後、片品村主導のもと、『わたしの避難行動』に基づいた避難訓練や、小学生を対象とした防災教室などが継続的に実施されており、地域防災力向上に資する取り組みとなっている。

以上のような地区防災計画を踏まえ、次に合同防災訓練における訓練シナリオの検討を行った。

3. 訓練シナリオの検討

合同防災訓練では、降雨を誘因として片品川上流での河道閉塞発生をはじめとする災害を想定し、地

区防災計画や防災行動計画に基づき、どのような準備や災害対応を行うかを確認することを目的として質問内容を検討した。(表1)

表1 訓練での質問内容と回答ポイント(抜粋)

①	場面	大雨注意報/警報の発表(5時/17時)
	質問	群馬県内で豪雨が予想されるような状況で、地区防災計画を活用した対応行動を教えてください。
	回答ポイント	・ 気象情報の伝達、注意呼びかけ ・ 警戒すべき地区の巡視 ・ 要配慮者の受け入れ体制確認
②	場面	土砂災害警戒情報の発表(21時)
	質問	現在の気象状況および今後の見込みを踏まえた住民への支援内容があれば教えてください。
	回答ポイント	・ 開設している避難場所の周知 ・ 警察・消防への避難誘導支援依頼
③	場面	土砂災害発生の第一報(1-4時)
	質問	身の危険を感じた住民から「避難したほうが良いか」という問い合わせがあった場合、どのような対応をとるか教えてください。
	回答ポイント	・ 夜間の(緊急)避難方法

4. 合同防災訓練の実施

合同防災訓練は令和7年1月に実施し、片品村をはじめ、沼田市、みなかみ町、群馬県、国土交通省の関係機関、砂防ボランティア等、計35名が参加した。



図3 訓練実施状況

表1で設定した質問に対する片品村からの回答を表2に示す。

場面①では、危険箇所の把握や情報収集の手段を住民に確認していただくとともに、早期避難の呼びかけや避難所開設を進める旨の回答があった。

場面②では、要配慮者に対する避難支援と関係機関との連携対応について回答があった。

場面③は、通常であれば避難指示により避難を促す状況であるが、夜間避難の危険性を考慮して緊急避難(より安全な場所での待機)に関する回答があった。

表2 訓練での片品村の回答

	訓練時の回答
①	・ 地区防災計画に基づいた防災情報の取得方法、居住地域の危険箇所の把握等を、事前に住民自ら確認するようにお願いしている。 ・ それを踏まえて住民に対しては、<u>気象情報の確認や注意喚起を、防災行政無線等を活用して周知したい。</u> ・ 要配慮者については、台風が確実に接近することがわかっているので、<u>避難所開設準備、方法の確認を進める</u>
②	・ 「安心安全マップづくり」ということで、地区防災計画よりもさらに小さな集落単位で要配慮者の見守り等の活動をしている。毎年、<u>見守り対象者の選定と、誰が確認するかも取り決めており、その方たちをお願いをして対応にあたる形をとりたい。</u> ・ なるべく早めに県危機管理課や関係機関へ連絡する。村だけではマンパワーが足りないので消防、警察、自衛隊にも協力を要請する。
③	・ 夜遅いので、避難時にけがをしたり、二次災害に巻き込まれたりする可能性が高くなると考えるため、今の段階では避難を促す行動はしない。 ・ 避難方法を聞かれたら、命を守る行動をとる、自宅の中でより安全な場所に待機していただくような指示をする。

5. おわりに

今回の取り組みでは、地区防災計画の要素も含めた訓練シナリオを検討し、市町村をはじめ、県・国の機関も参加する訓練で質問・回答を行うことで、地域の実状に則した災害対応を関係機関が相互に確認でき、地域全体の危機管理能力向上に寄与したものと考えられる。

今後は河道閉塞だけでなく、集落孤立や複合災害等も訓練に盛り込むことで、多様な災害パターンに対する柔軟な対応シナリオの整備が期待される。

また、地区防災計画を策定している(これから策定する)自治体および関係機関においても、それぞれが実施する訓練で地区防災計画を考慮し、避難タイミング・避難方法・避難場所等を把握しておくことで、より迅速で確実な警戒避難、災害対応が期待できるものと考えられる。

参考文献

- 1) 片品村役場(2023): 片品村地区防災計画
<https://www.vill.katashina.gunma.jp/gaiyou/akuka/soumu/syomu/bousai/2023-0720-1835-38.html>